

標十五句

松岡隆子選

凌霄花の風の重さを風が押す
砂時計ひつくりかへす熱帯夜
雨脚の奥に点して晩夏の灯
他愛なくひと日果てたる蚊遣香
山百合や黒部の谷は底見せず
古い坂の中程にゐる夜の秋
扇風機しづかに夜を働けり
墨東の風に馴染みて白日傘
七夕を母と唄へば星揃ふ
房総の落暉大きく夏料理
起きぬけの水の一杯青山椒
人悼むとき白百合の濡れてゐる
窓の灯の一つづつ消え星涼し
白牡丹己の影に崩れるよ
野を分かつ道の凸凹草いきれ

岡高橋美穂
菊池一枝
田坂孝志
刈屋ひで子
波塚照美
濱地恵理子
渡辺あつ子
広渡詩乃
鈴木綾
松原ふみ子
染谷晴子
唐木和世
川上昌子
佐藤郭子